知識×臨床

脳外臨床

評価

— 003

VIP MEMBER

そのリハビリ、脳画像と一致している？

臨床でしか使えない脳画像の見方

評価チャートを臨床に繋げる

HDS—Rとは

▼ BRAIN

評価チャートを読み解く

2026年8月21 日 20:00~

NEUROIMAGING

同じHDS−R18点
日常生活はどう違う？

Aさん：HDS−R 18点

日時 −4

遅延再生 −6

その他ほぼ保たれる

Bさん：HDS−R 18点

逆唱 −2

計算 −2

物品記銘 −3

野菜想起 −5

同じ18点でも、

同じ18点だけど、同じ問題が起こり、同じ対応でいいのだろうか？

HDSーR長谷川式とは？

1974年、精神科医の長谷川和夫先生らによって、
現在のHDS-Rの前身である長谷川式簡易知能評価スケール（HDS）が作られた。
目的は、一般高齢者の中から認知症が疑われる人を簡便にスクリーニングすること。

HDSは「記憶障害を詳しく評価する検査」として作られたわけではない
↓
あくまで「この高齢者に認知症が疑われるか？」を短時間で拾い上げる

昔のHDSには時代依存の質問があった
旧HDSには、
「終戦は何年でしたか？」
「現在の総理大臣は？」
「1年は何日ですか？」

1991年、加藤伸司先生らによって
質問項目の再構成・採点基準
の見直しが行われた。

HDS−R長谷川式とは？

正確には20/21点がカットオフポイント。
1991年のHDS-R作成時の検討では、この境界で感度0.90、特異度0.82

カットオフ値

30　認知症の可能性は低い　20　認知症の可能性は高い　0

感度90%ってどういう意味？

認知症の人が100人いたとする。

＜約90人は、20点以下＞
→ HDS-Rでも「認知症疑い」と拾える

＜約10人は、21点以上＞
→ 認知症なのにHDS-Rでは拾えない

特異度0.82ってどういう意味？

認知症ではない人100人がいたとする

＜約82人は、21点以上＞
→ 正しく非認知症側に分類される。

＜約18人は、20点以下＞
→ 認知症ではないのに「認知症疑い」と判定

記憶障害と認知症は違う？

健忘症＝「記憶」という機能の障害

認知症＝複数の認知機能の低下によって生活に支障が生じる「症候群」

健忘症とは？

主にエピソード記憶の
獲得・保持・想起などが障害された状態

「昨日何をしたか覚えていない」
「さっき聞いたことを覚えられない」

入力 → 注意 → 符号化 → 保持 → 想起
この流れの問題

注意・言語・遂行機能・視空間認知
などが比較的保たれている場合がある

認知症とは？

注意、遂行機能、学習・記憶、言語
知覚・運動、社会的認知など、
認知領域の低下を認め、それが自立した
日常生活を妨げるレベルになった状態

強い健忘症があっても、
それだけをもって認知症とは言えない

記憶障害よりも行動・人格変化や
遂行機能、言語の問題が前景に立つことも

記憶障害と認知症は違う？

健忘症＝「記憶」という機能の障害

認知症＝複数の認知機能の低下によって生活に支障が生じる「症候群」

原因も違うのか？

健忘症は？

健忘症は、基本的に記憶を成立させる
神経システムの障害
代表的には、パペツカイロの障害

原因疾患
脳梗塞・脳出血、低酸素脳症、
脳炎、頭部外傷、アルコール依存症
記憶回路を障害するさまざまな病態

認知症は？

一つの脳部位が壊れたことを表す言葉ではない

・アルツハイマー病
→ 海馬・内側側頭葉から始まり広範なネットワーク

・レビー小体病
→ 注意、視覚認知、遂行機能などにも影響

・前頭側頭葉変性症
→ 前頭葉・側頭葉ネットワーク
→ 行動・社会的認知・言語など

・脳血管障害
→ 障害部位・ネットワークによって多彩な認知障害

記憶障害と認知症は違う？

健忘症＝「記憶」という機能の障害

認知症＝複数の認知機能の低下によって生活に支障が生じる「症候群」

健忘症は？

海馬梗塞

↓

健忘症

認知症は？

Alzheimer病（原因疾患）

↓

海馬・記憶ネットワークの障害

↓

健忘症／記憶障害

↓

さらに病変・機能障害が広がる

↓

言語・遂行機能・見当識なども低下

↓

生活の自立に支障

↓

認知症という状態

①お歳はおいくつですか？

自己に関する長期情報＋現在の時間情報＋その2つを結びつける更新

EX

「生年月日は昭和20年3月10日です」

と生年月日は言えるのに

↓

「年齢は？」「72歳です」

↓

本当は「81歳」

自分の昔からの情報を忘れたとは限らない・・

生年月日という固定情報は保持されている

↓

でも現在の年月に合わせて「今の自分」へ更新できていない

年齢を答えるために必要な能力

① 質問を聞く→「お歳はいくつですか？」

② 言語理解→「自分の現在の年齢を聞かれている」と理解

③ 注意を向ける→質問内容を保持する

④ 自己情報へアクセス→自分の生年月日・過去の年齢・自分自身についての知識

⑤ 現在の時間情報と照合→「今は2026年」

⑥ 更新・計算→生年月日＋現在年→「私は○歳」

⑦ 回答を選択

⑧ 言語出力→「81歳です」

答えられないではなく、どこで止まっているのか？

年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

人はどうやって言葉を理解するのか？

コップ取って♪

一次聴覚野 41/42(横側頭回)

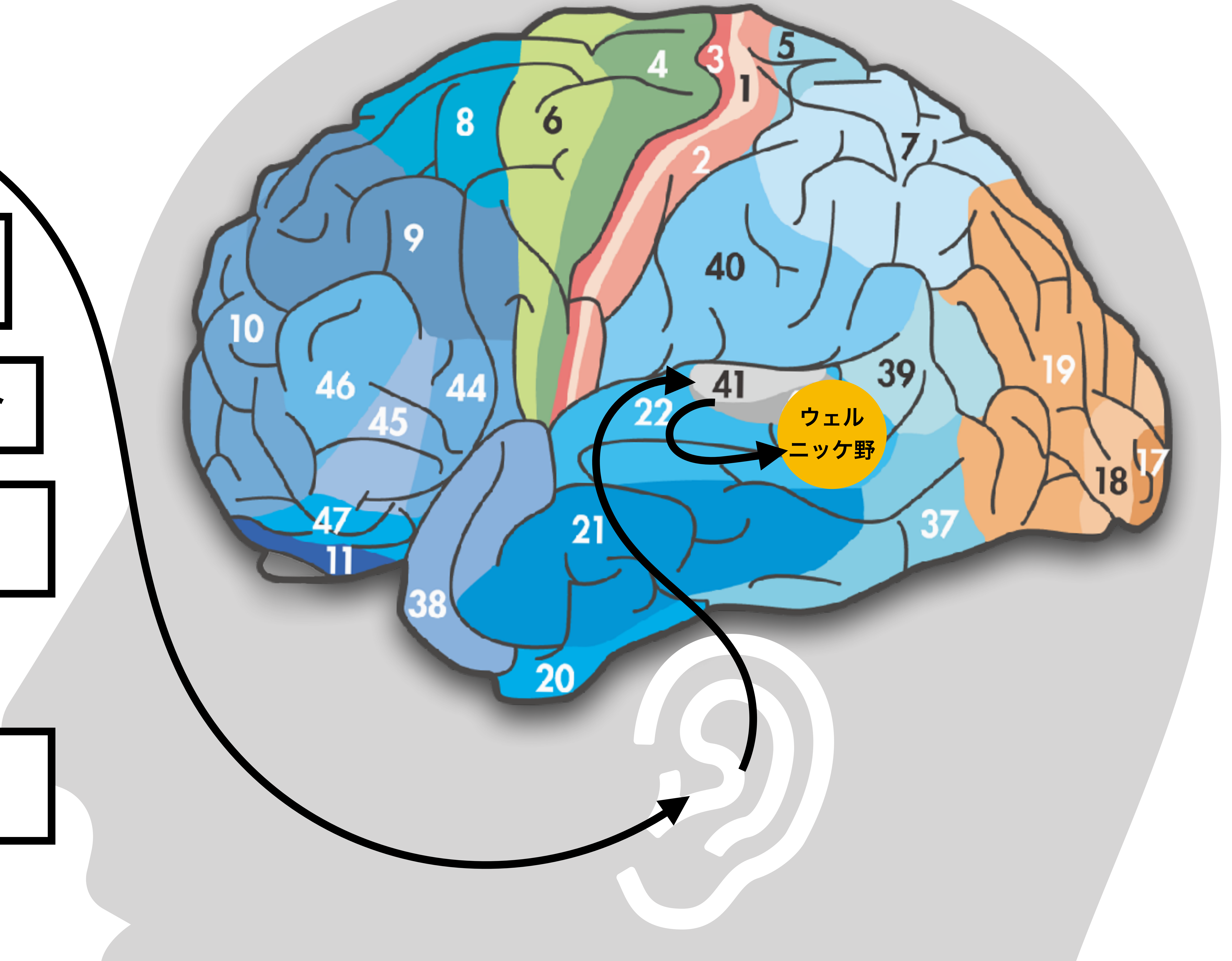
①音量・音高 ②リズム ③体験統合

ウェルニッケ野 22野(上側頭回)

①言語 ②言語以外

中側頭回

①意味理解 ②喚語



年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

脳のどこが障害されると起こる？

持続性注意

「一定時間集中し続ける力」

持続性注意	一定時間、同じ課題に 注意を向け続ける能力。	**練習中ずっと 集中できるか**	20〜30分の歩行練習や上肢練習を 集中して続けられる。

集中とは、「必要なことに注意を向け、それを維持できている状態」のこと。

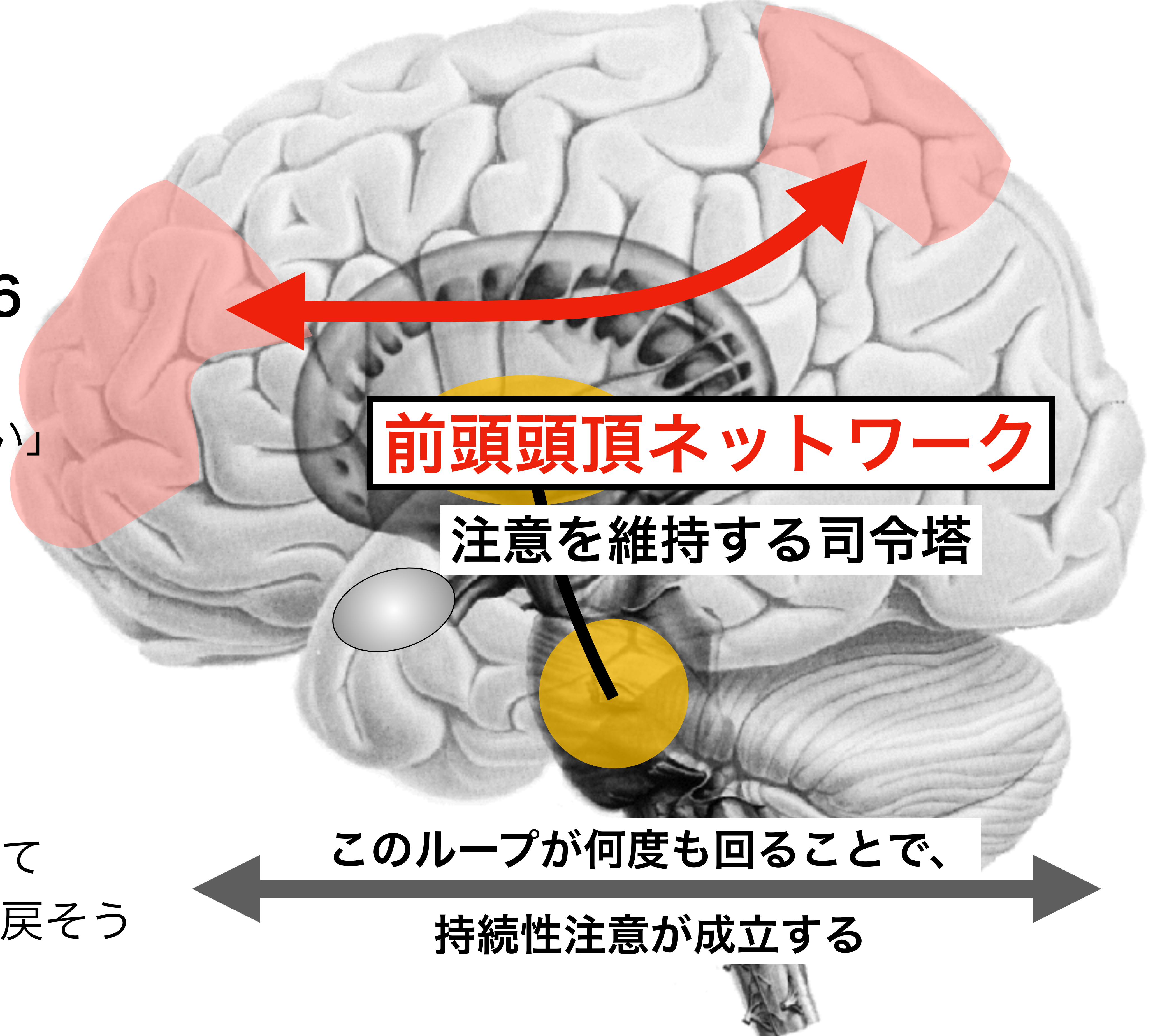
背外側前頭前野

指示を出す監督

「今はこれを続ける」

という目標を維持する.9/46

「30秒間、赤い丸を数えてください」
という課題なら、前頭葉が
「赤い丸を数え続ける」という
目標を保持します。



上頭頂小葉

スポットライト

「何に注意を向けるか」

「どこに注意を向けるか」

コップを見続けるすると頭頂葉は、
・コップがどこにあるか
・ 自分との位置関係
・注意をその対象へ向け続ける

②まだその課題続けて
④もう一度も目的に戻そう

このループが何度も回ることで、
持続性注意が成立する

①そこ見て！
③注意が逸れてきた！！

年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

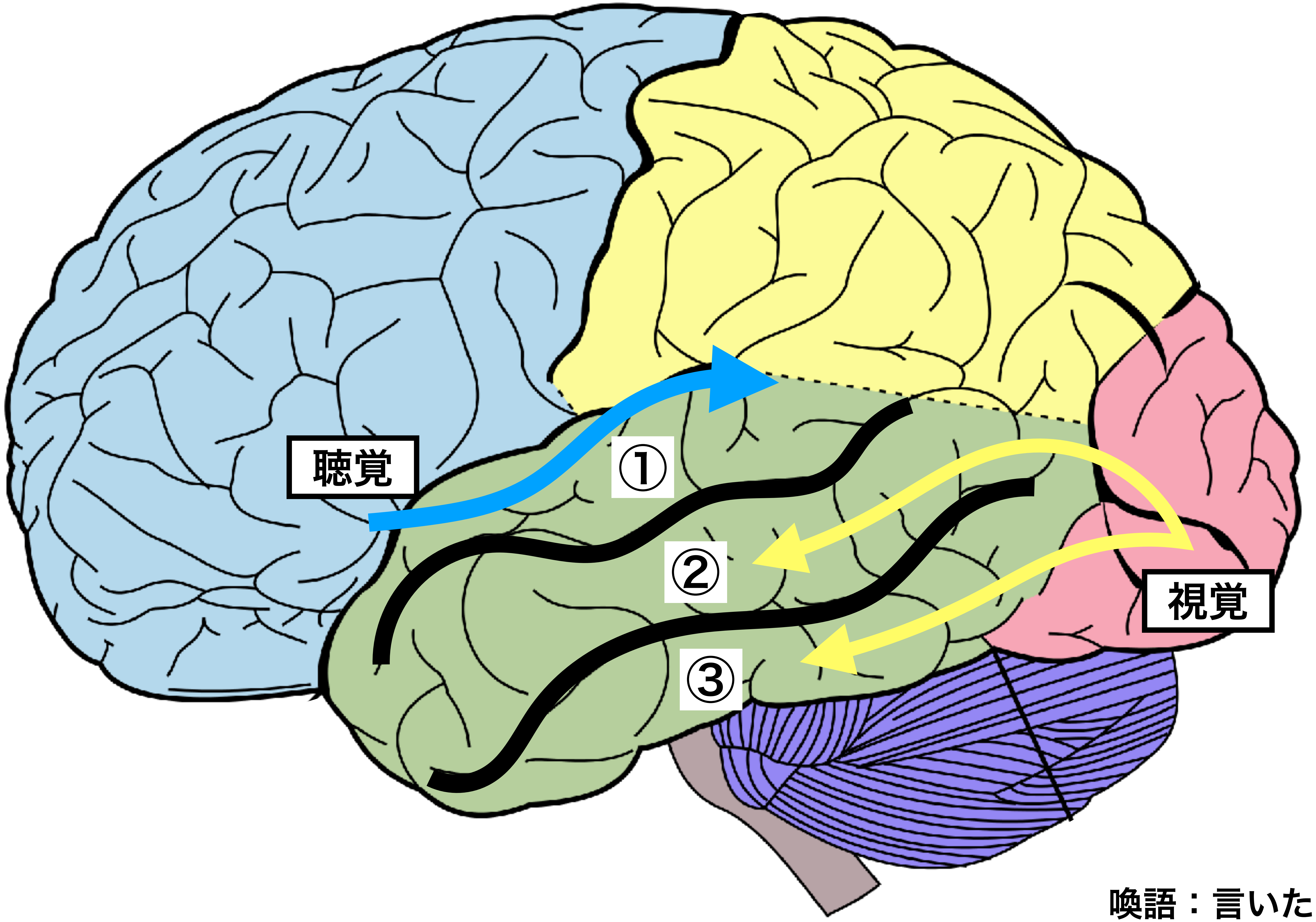
↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

３つの側頭葉



聴覚情報を処理することで
物体の性質を認識する

① 上側頭回

② 中側頭回

言語情報を処理することで
言語の意味理解と喚語を行う

③ 下側頭回

喚語：言いたい事を適切な言葉として思い起こすこと

年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

内側前頭前野

「これは自分に関する情報だ」

自分の性格、価値、自分について の知識など、情報を自己と関連づけて評価する処理に関係。

「81歳」という情報
↓
単なる数字ではなく
↓
「私は81歳である」
という自己関連づけ。

後部帯状皮質

自分の過去・現在の文脈をつなぐ

海馬系とも機能的に関係し、
自伝的記憶や自己関連処理、
内部思考などに関与

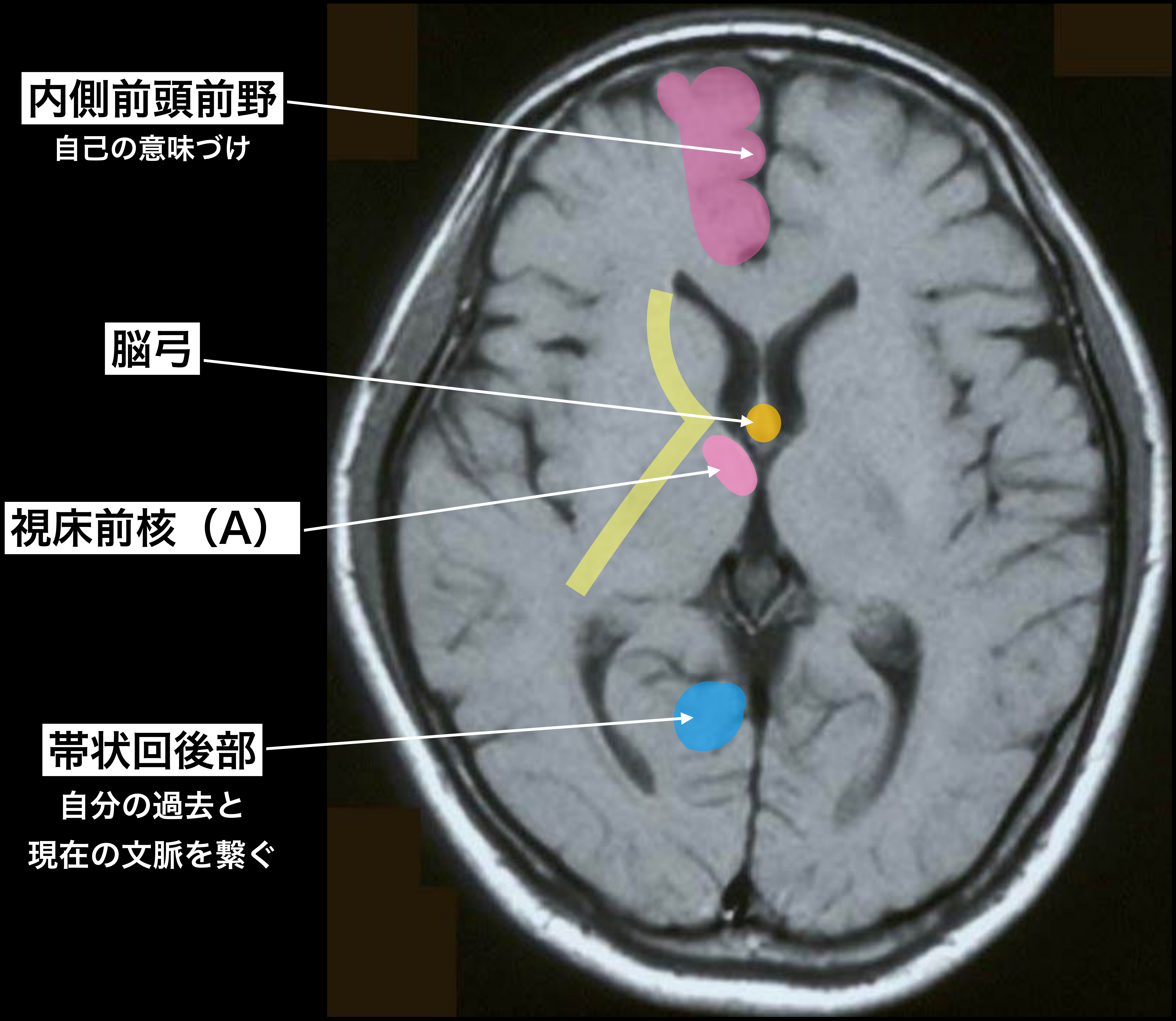
「私は昭和20年生まれ」
「去年80歳になった」
「今年誕生日を迎えた」
など、自分に関する記憶・文脈
を現在の自分と結びつける

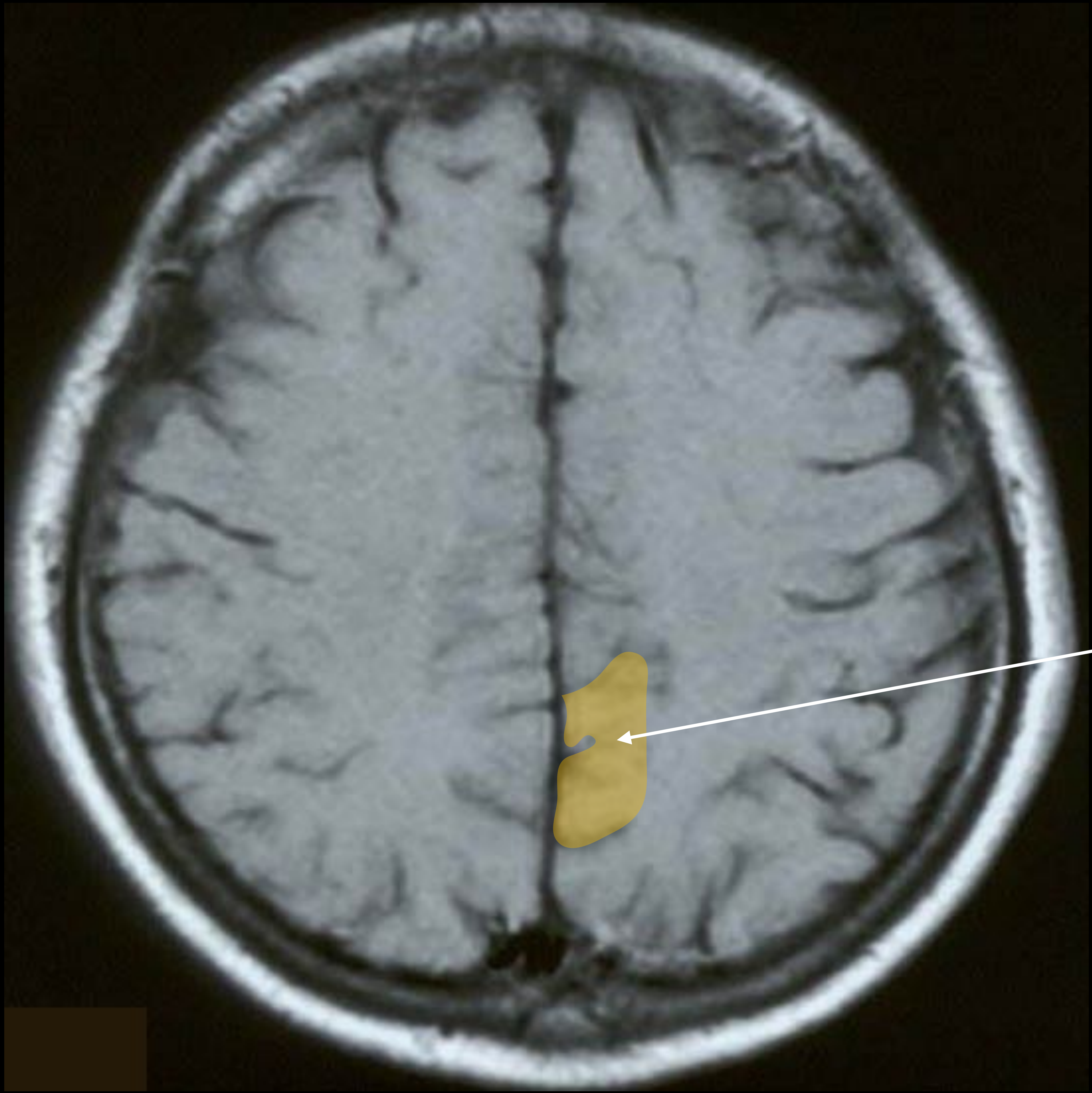
楔前部

「自分」を時間・空間の中に置く

自伝的記憶、自己関連処理、
心的イメージ、視空間処理など
幅広く関係

「私は今、この場所にいて、
この時間を生きている」
という自分の内部モデルに関係


内側前頭前野
自己の意味づけ
脳弓
視床前核（A）
帯状回後部
自分の過去と
現在の文脈を繋ぐ


楔前部
上頭頂小葉
「自分」を時間
空間の中に置く

年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

前頭前野で現在情報との照合・更新

背外側前頭前野
必要な情報を一時的に保持・操作する
「1945」
「2026」
を課題遂行中に扱う。

腹外側前頭前野
必要な記憶情報を選択・検索する制御
「自分の年齢を答えるために必要な情報は何？」

前帯状皮質
競合・エラーのモニタリング
「72歳……いや、今2026年だから違うぞ」
のような矛盾の検出・修正に関係する。

➡

どこかで聞いた話では？

脳のどこが障害されると起こる？

選択性注意

「たくさんの情報から必要なものを選ぶ力」

選択性注意	妨害刺激を無視して 必要な情報に集中する能力。	**騒がしいリハ室でも 集中できるか**	周囲の会話や物音があっても 目の前の課題を続けられる。

腹外側前頭前野

指示を出す監督

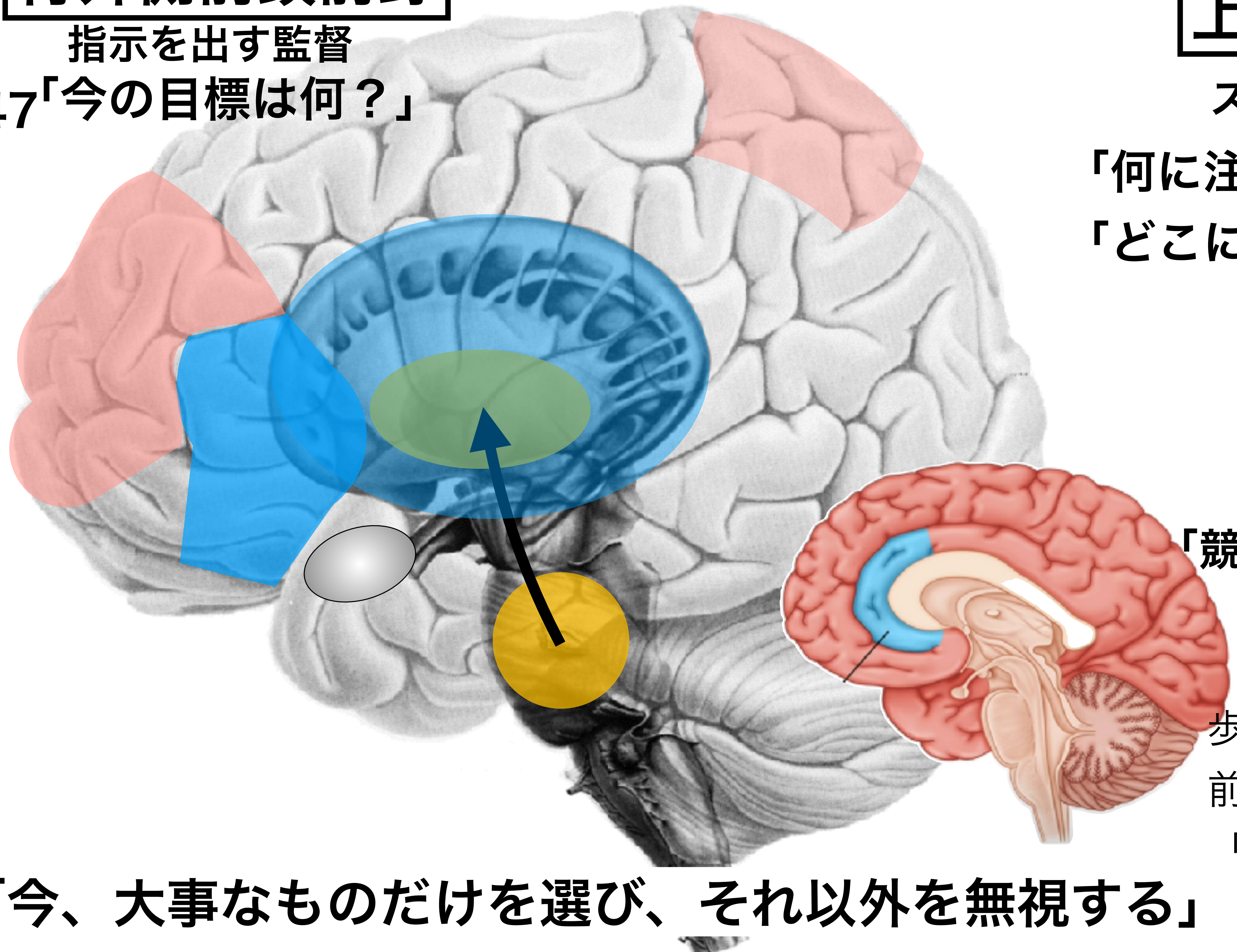
「不要な刺激を抑える」44/45/47

病院の廊下で歩行練習。
前から知り合いが来る。
しかし、今は歩くことに集中。
話しかけるのは後。と抑える。

背外側前頭前野

指示を出す監督

「今の目標は何？」



上頭頂小葉

スポットライト

「何に注意を向けるか」

「どこに注意を向けるか」

大脳基底核

連合野ループ

「不要な反応を止める」

足元を見る運動を間接経路。
前を見る運動を直接経路。

前帯状皮質

「競合している情報を監視する」

モニター（監視役）

歩行中、足元を見る？
前を見る？という競合が起こる。
「今は前を見る方が重要」と判断

「今、大事なものだけを選び、それ以外を無視する」

年齢を答えるために必要な能力

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

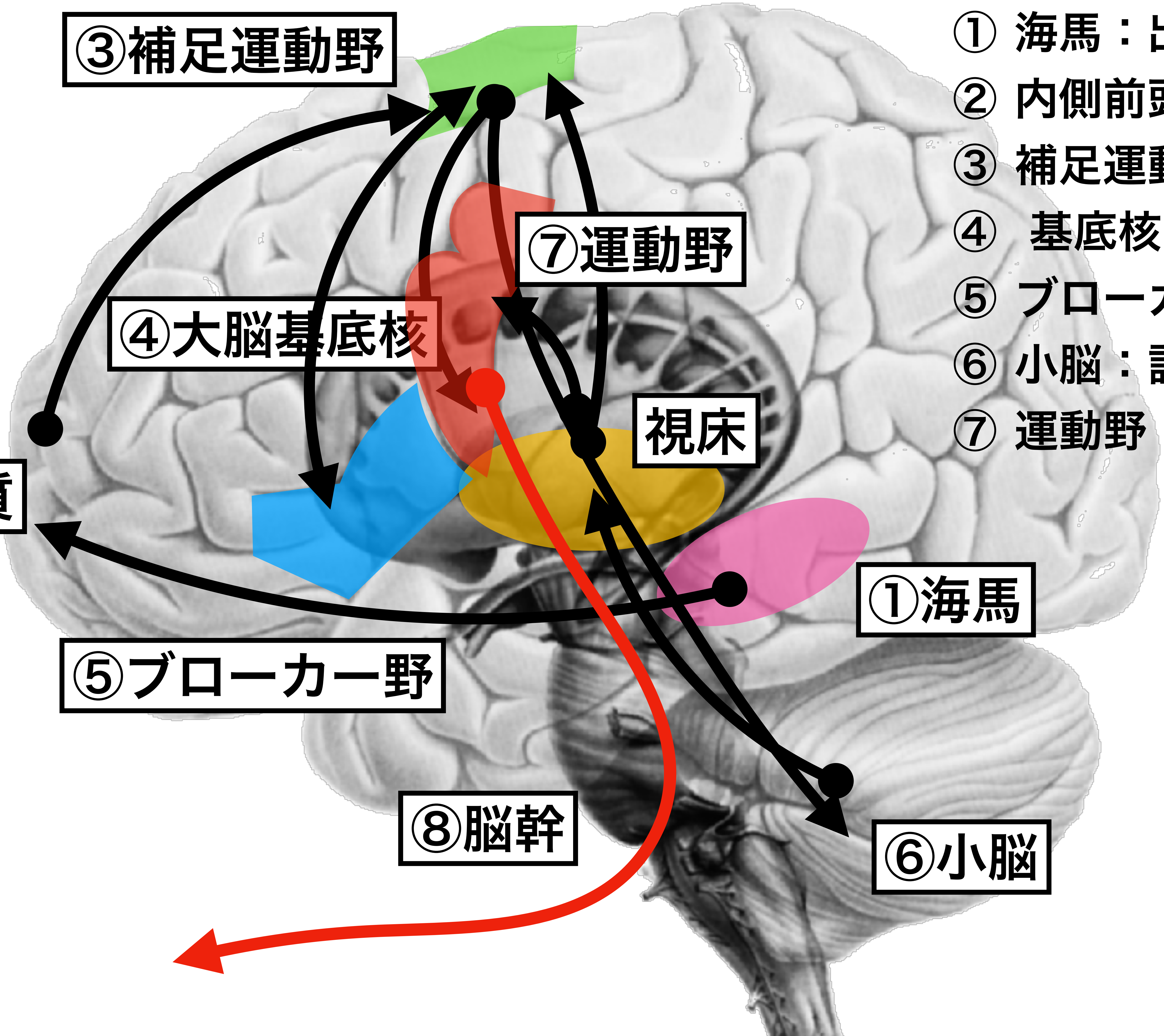
↓

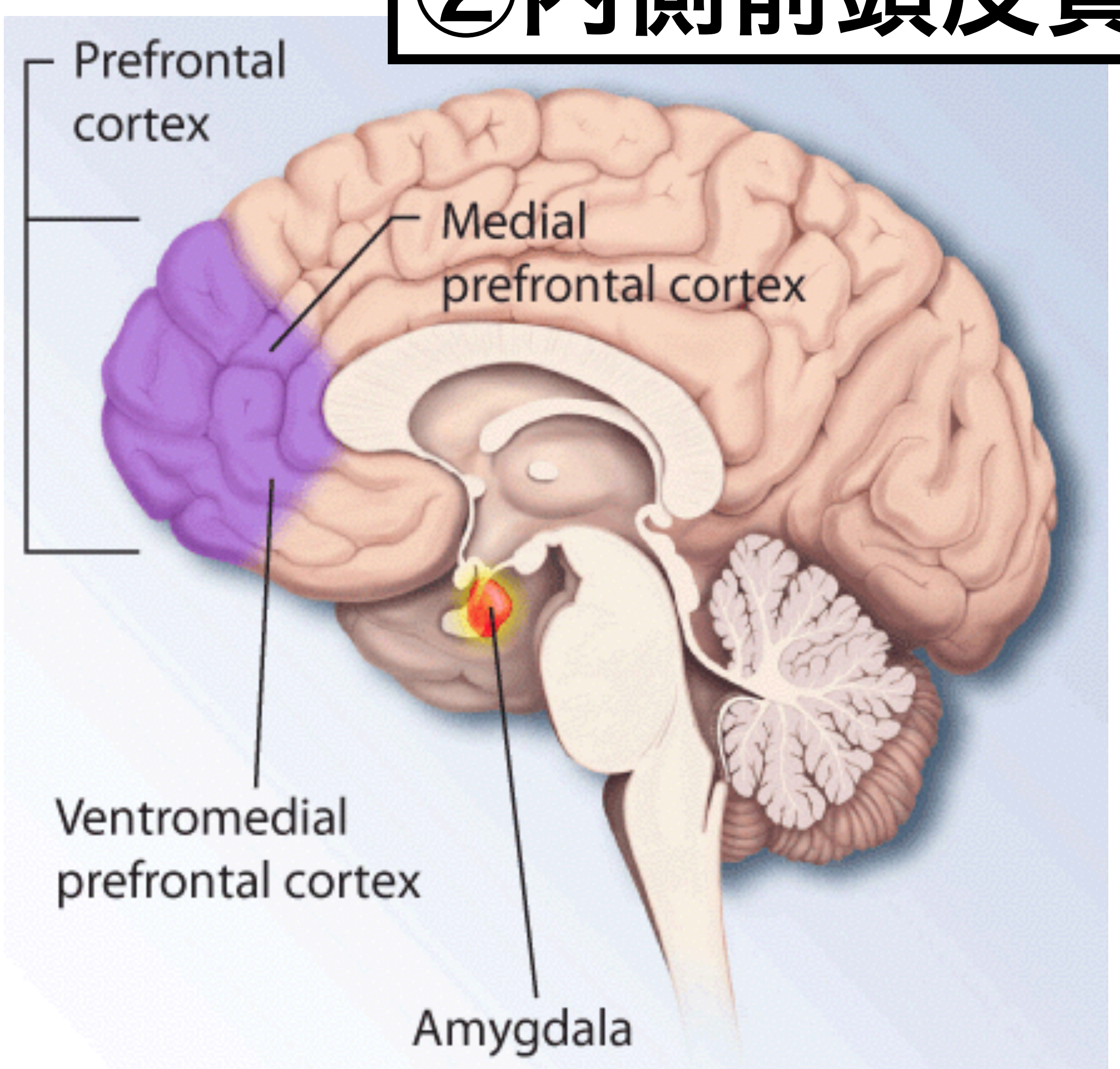
発話

思考を形にして伝える仕組み

〜今日あったことをSTに伝える〜

① 海馬：出来事を取り出す
② 内側前頭皮質：話す意味を決める
③ 補足運動野：話し始める決断
④ 基底核：GO / NO-GO
⑤ ブローカ野：体験を「文」にする
⑥ 小脳：話し方を整える
⑦ 運動野：筋肉に指令





注意＝情報処理の能力である

まず調べないと行けないこととは？

行動すら起こらない場合は？

→これも注意障害？

- 自己認識 →病識欠如
- 遂行機能 →遂行機能障害
- 記憶力 →記憶障害
- 情報処理 →受信・発信ができない（情報の把握ー、断片的表現）
- 注意力・集中力 →集中力の持続が困難
- 発動性・抑制 →無気力・脱抑制(心のコントロールができない)
- 精神的・心的エネルギー →覚醒していられない状態

神経心理学ピラミッド

全ての課題でこれを考えるのか！？

聴覚野

↓

側頭葉の言語理解ネットワーク

↓

前頭頭頂注意ネットワーク

↓

側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス

↓

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

↓

前頭前野で現在情報との照合・更新

↓

左前頭葉を中心とする言語出力

↓

発話

全ての課題での

聴覚入力
↓
言語理解
↓
注意・課題保持
↓

★ここが問題によって変わる

↓
回答選択
↓
言語出力

聴覚野
↓
側頭葉の言語理解ネットワーク
↓
前頭頭頂注意ネットワーク
↓
側頭葉・内側側頭葉などに蓄積された自己情報へのアクセス
↓
内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク
↓
前頭前野で現在情報との照合・更新
↓
左前頭葉を中心とする言語出力
↓
発話

同じ見当識をなぜ3つも聞くの？

年齢	日時	場所
「私は誰・どんな自分？」	**「今はいつ？」**	**「今どこ？」**
内側前頭前野	海馬 内側側頭葉	海馬傍回 脳梁膨大後部皮質 頭頂系

↓

後部帯状皮質
楔前部

ここでどこの情報が大切か？
の重みづけをしている「

内側前頭前野・後部帯状皮質・楔前部などを含む自己関連ネットワーク

内側前頭前野	**後部帯状皮質**	**楔前部**
「これは自分に関する情報だ」	**自分の過去・現在の文脈をつなぐ**	**「自分」を時間・空間の中に置く**
自分の性格、価値、自分についての知識など、情報を自己と関連づけて評価する処理に関係。	海馬系とも機能的に関係し、自伝的記憶や自己関連処理、内部思考などに関与	自伝的記憶、自己関連処理、心的イメージ、視空間処理など幅広く関係
「81歳」という情報 ↓ 単なる数字ではなく ↓ 「私は81歳である」 という自己関連づけ。	「私は昭和20年生まれ」 「去年80歳になった」 「今年誕生日を迎えた」 など、自分に関する記憶・文脈を現在の自分と結びつける	「私は今、この場所にいて、この時間を生きている」 という自分の内部モデルに関係

3語記銘「桜・猫・電車を覚えてください」

「今ある情報を新しく記憶にする」

聴覚入力

↓

言語理解

↓

注意

↓

音韻性短期保持

↓

意味処理：側頭葉

↓

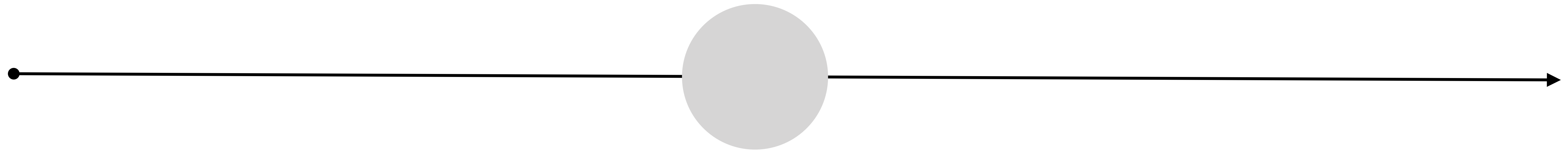
符号化： 海馬

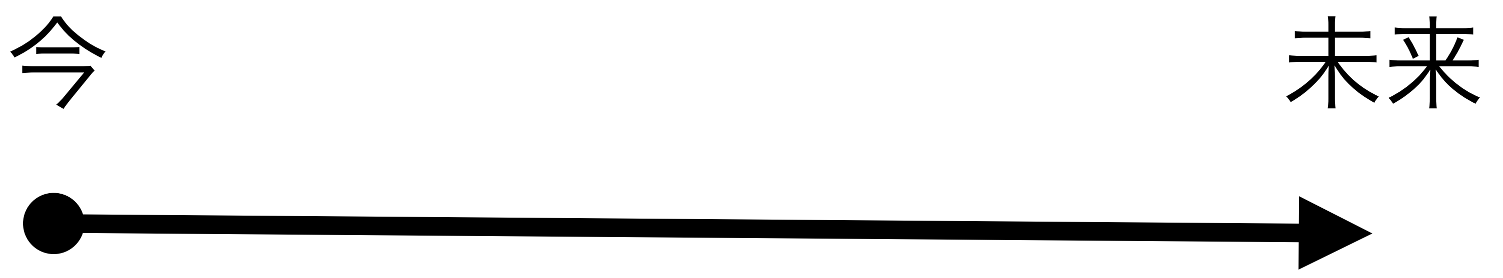
↓

記憶形成

記銘力：「記憶として取り込む力」→符号化のこと

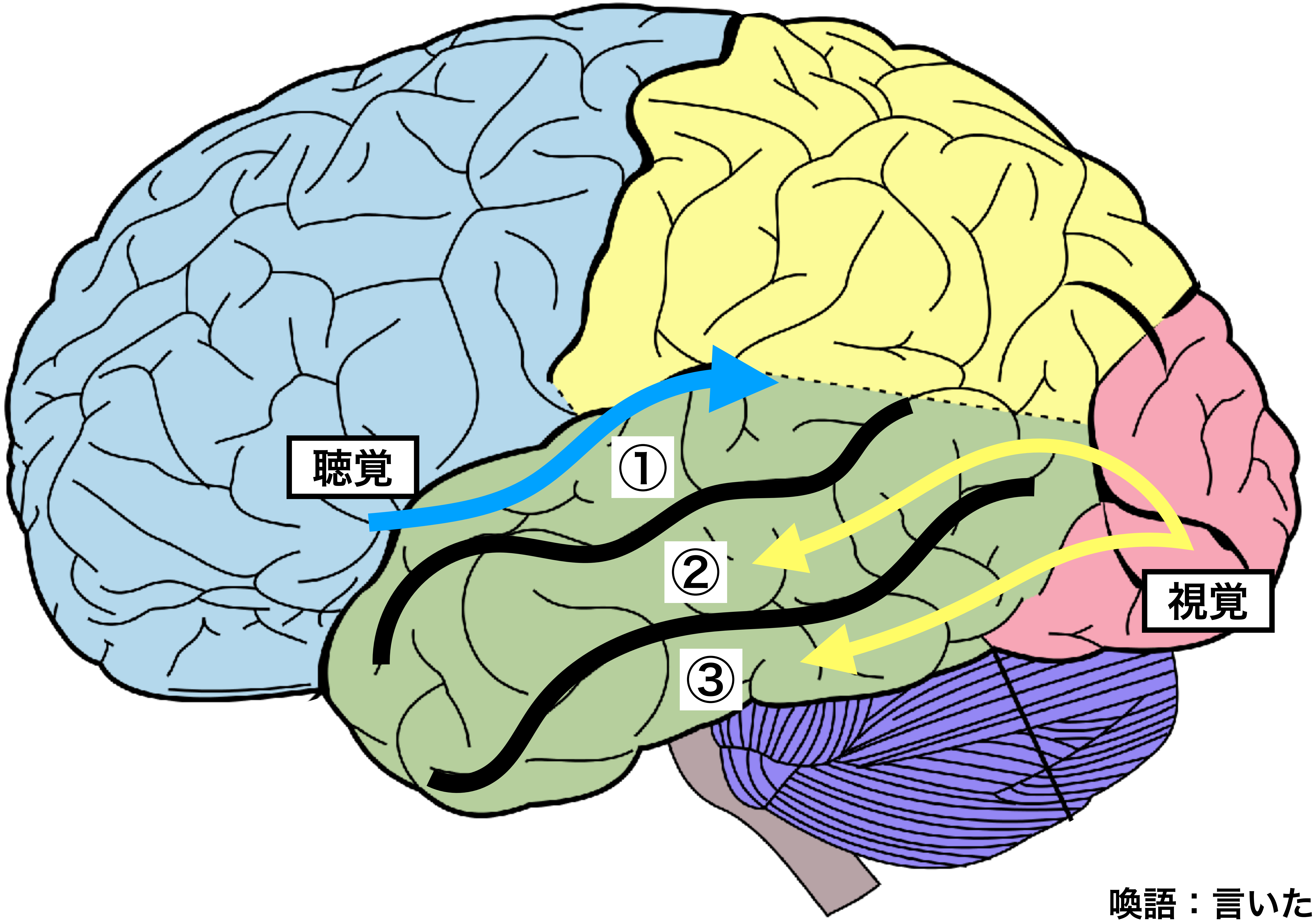
持っている情報を使って、現在を知る（見当識）





現在の情報を記憶に入れて、後で使えるようにする（記銘）

３つの側頭葉



聴覚情報を処理することで
物体の性質を認識する

① 上側頭回

② 中側頭回

言語情報を処理することで
言語の意味理解と喚語を行う

③ 下側頭回

喚語：言いたい事を適切な言葉として思い起こすこと

海馬について考える

インプット

さまざまな領域から
情報が海馬に

視覚

聴覚

感覚

前頭前野
注意・計画・判断・文脈

扁桃体
感情の強さ・価値

海馬

歯状回

新しい記憶を
形成する入り口

様々な情報を
まとめて
「一つの出来事」
エピソードとして
整理・記憶の形にする

海馬体部

情報を受け取り
一時的に保持する

短期的な情報を保持し
繰り返しや関連付を
行い長期記憶への
定着を助ける

海馬尾部

情報を出力し
大脳皮質に送る

整理された情報を
大脳皮質に送り
長期記憶として
保存できるようにする

アウトプット

海馬で整理された情報
が各方面に送られる

大脳皮質
側頭葉・前頭葉
頭頂葉・後頭葉へ

前頭前野
思い出す・判断する・計画

扁桃体
感情と結びつける

計算100から7を順番に引いてください」

↓

「１００」を一時的に保持する
下頭頂小葉を中心とした領域
↓
「–７」というルールを保持する
前頭前野
↓
100から７を引いていく
前頭前野 ↔ 頭頂葉ワーキングメモリ

↓

「８６」と答える
左前頭葉 → 運動野

「覚える」でも「思い出す」でもなく
「情報を保持しながら操作する」課題。

前頭頭頂葉ネットワークといえば

脳のどこが障害されると起こる？

持続性注意

「一定時間集中し続ける力」

持続性注意	一定時間、同じ課題に 注意を向け続ける能力。	**練習中ずっと 集中できるか**	20〜30分の歩行練習や上肢練習を 集中して続けられる。

集中とは、「必要なことに注意を向け、それを維持できている状態」のこと。

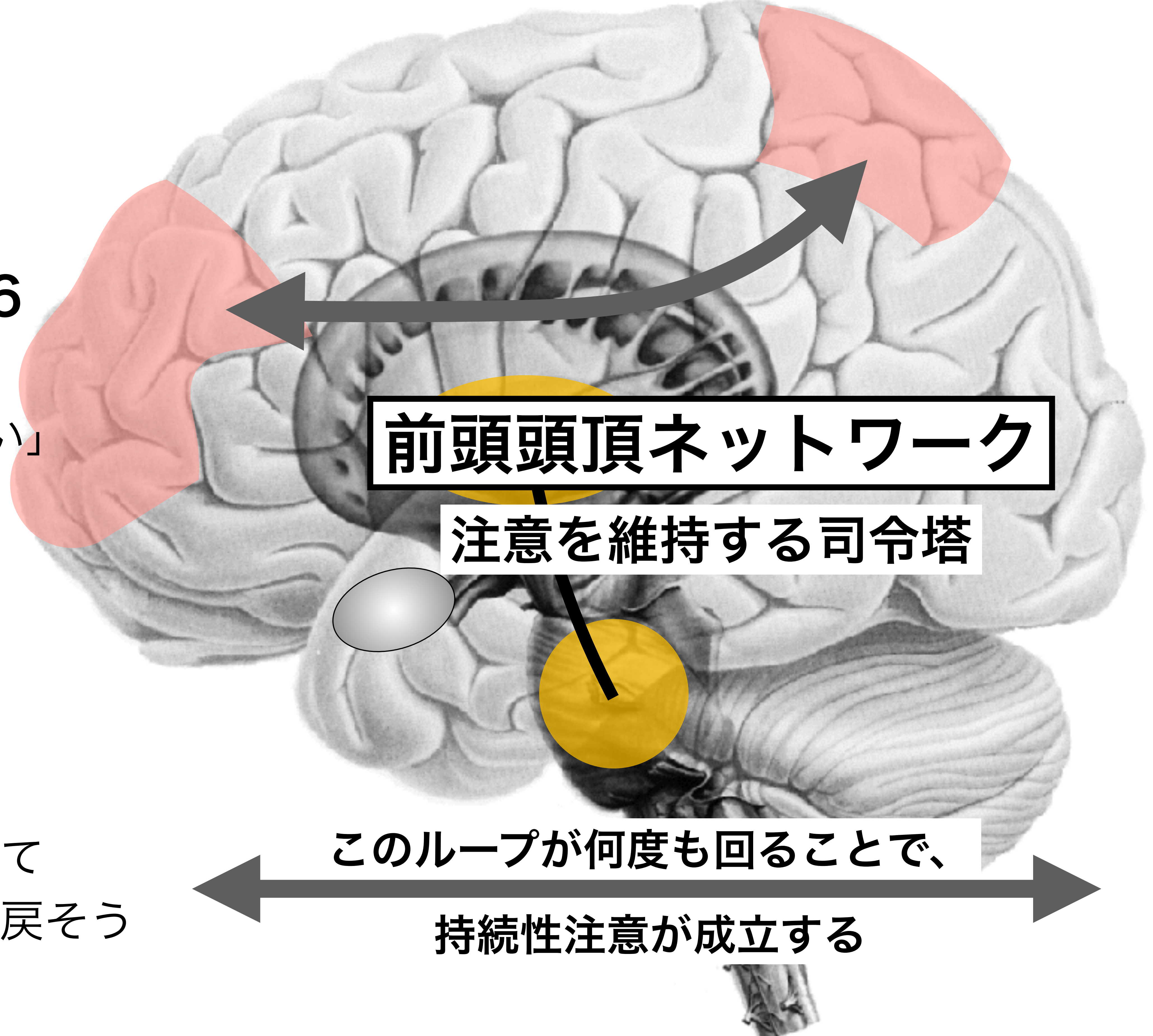
背外側前頭前野

指示を出す監督

「今はこれを続ける」

という目標を維持する.9/46

「30秒間、赤い丸を数えてください」
という課題なら、前頭葉が
「赤い丸を数え続ける」という
目標を保持します。



上頭頂小葉

スポットライト

「何に注意を向けるか」

「どこに注意を向けるか」

コップを見続けるすると頭頂葉は、
・コップがどこにあるか
・ 自分との位置関係
・注意をその対象へ向け続ける

②まだその課題続けて
④もう一度も目的に戻そう

このループが何度も回ることで、
持続性注意が成立する

①そこ見て！
③注意が逸れてきた！！

計算100から7を順番に引いてください」

↓

「１００」を一時的に保持する
下頭頂小葉を中心とした領域
↓
「−７」というルールを保持する
前頭前野
↓
100から７を引いていく
前頭前野 ↔ 頭頂葉ワーキングメモリ

↓
「８６」と答える
左前頭葉 → 運動野

「覚える」でも「思い出す」でもなく
「情報を保持しながら操作する」課題。

前頭頭頂葉ネットワークといえば
持続性注意＝「意識を向け続ける」
ワーキングメモリ＝「情報を頭に置いたまま、使う・操作する」

Aさん

100−7＝93
93−7＝86
86−7＝79
……
最初はできる。
でも課題が長くなるにつれて、
「……何でしたっけ？」
集中が切れてくる。
これは、持続性注意の低下

Bさん

最初から、
「100から……
何を引くんでしたっけ？」
あるいは、
100−7＝93
↓
「次は……？」
ルールや直前の結果を保持できない
ワーキングメモリの問題？

数字逆唱　「6・8・2」

↓

「6・8・2」を一時的に保持する
下頭頂小葉を中心とした領域
↓
「逆から」というルールを保持する
前頭前野
↓
順番を入れ替える
前頭前野 ↔ 頭頂葉ワーキングメモリ

↓

「2・8・6」と答える
左前頭葉 → 運動野

頭頂葉＝情報を一時的に保持する
前頭前野＝保持した情報を操作する

2つの違うは？
計算　　100-7　　→ 保持＋操作＋**数的処理**
逆唱　「6・8・2」→ 保持＋操作＋**系列順序処理**

- **保持ができていないなら→右頭頂葉**
- **ルールがわからない→前頭前野**
- **保持した情報を操作できない→ワーキングメモリ**

遅延再生　桜・猫・電車

記憶された情報へアクセスする
海馬・内側側頭葉
↓
必要な記憶を探す
前頭前野
↓
記憶を取り出す
海馬系 ↔ 大脳皮質
↓
言葉にする
左前頭葉
↓
「桜・猫・電車」と答える

3語記銘＝記憶に「入れる」
↓
保持
↓
遅延再生＝記憶から「想起」

想起

遅延再生　桜・猫・電車

前頭前野

検索ワード・目的の設定

「今日の予定を思い出したい」

パペッツ回路

海馬へ

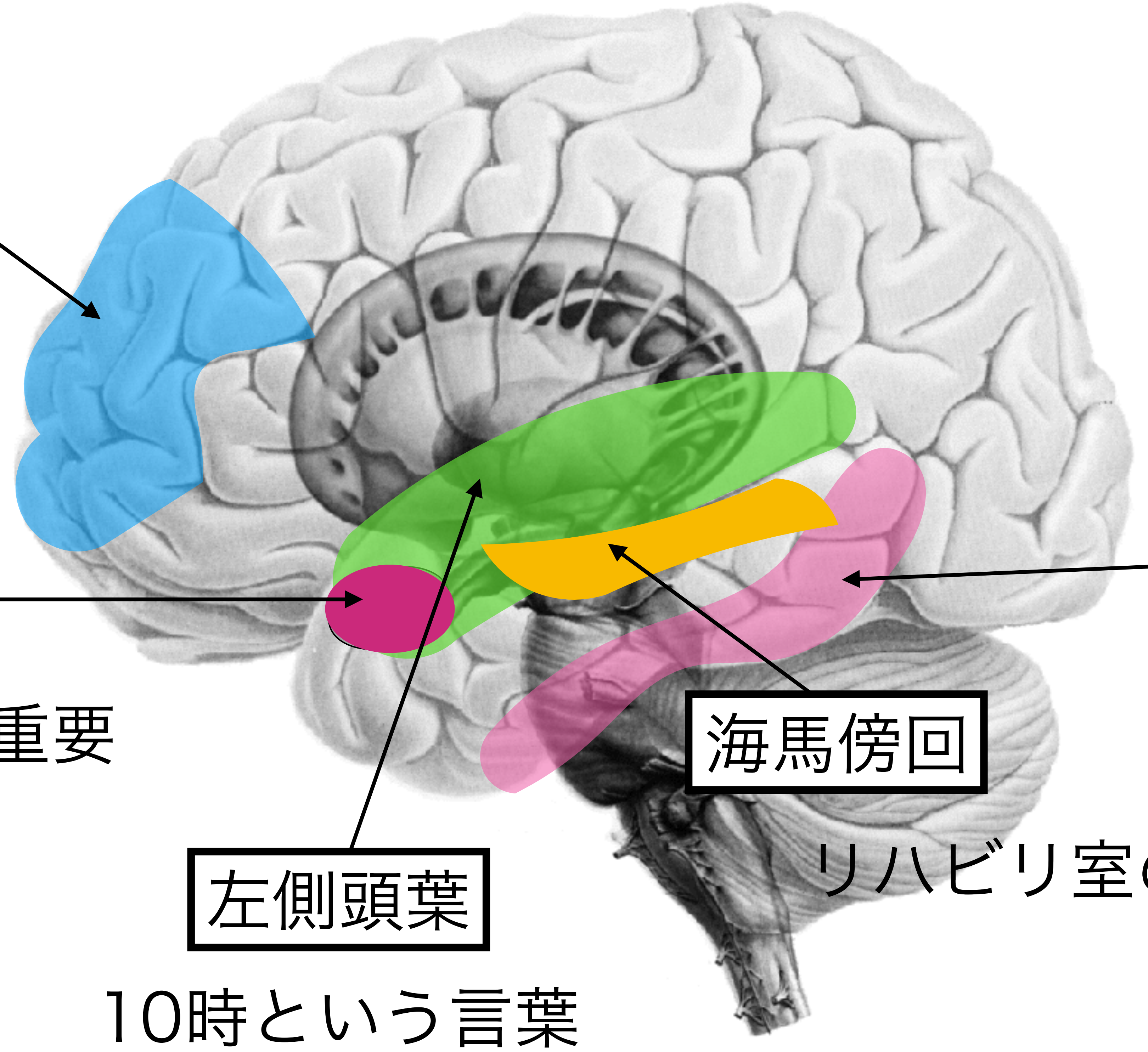
昨日の出来事
インデックスを検索

- 朝ごはん
- リハビリの内容
- 先生との話
- 明日の予定

海馬から各領域に検索指令が送られる → 想起

思い出す

「そうだ今日の
10時から
リハビリだ！」



遅延再生　桜・猫・電車

記憶された情報へアクセスする
海馬・内側側頭葉
↓
必要な記憶を探す
前頭前野
↓
記憶を取り出す
海馬系 ↔ 大脳皮質
↓
言葉にする
左前頭葉
↓
「桜・猫・電車」と答える

3語記銘＝記憶に「入れる」
↓
保持
↓
遅延再生＝記憶から「想起」

＜ヒントが重要＞
自力では出ない→「植物でした」→「桜！」

ヒントを出しても出ないなら、
記憶へ入っていない（符号化）
保持できていない

患者様が約束の時間に来ない、この原因は？

先生

「明日は10時です。」

翌日

「そんな話聞いてません。」

患者

「健忘症」エピソードの記憶障害＝海馬❌

先生

「明日は10時です。」

翌日

「あっ何時やった…」

患者

先生

「10時ですか？」

「あーそうそう！！」

患者

「想起の障害」記憶はOK＝海馬もOK

物を見る
後頭葉
↓
「何の物か」を認識する
側頭葉・腹側視覚路
↓
見た物を記憶に入れる
海馬・内側側頭葉
↓
保持する
海馬系を含む記憶ネットワーク
↓
記憶から取り出す
海馬系 ↔ 前頭前野
↓
名前を答える
左前頭葉

5物品記銘

3語記銘との違いはなに？

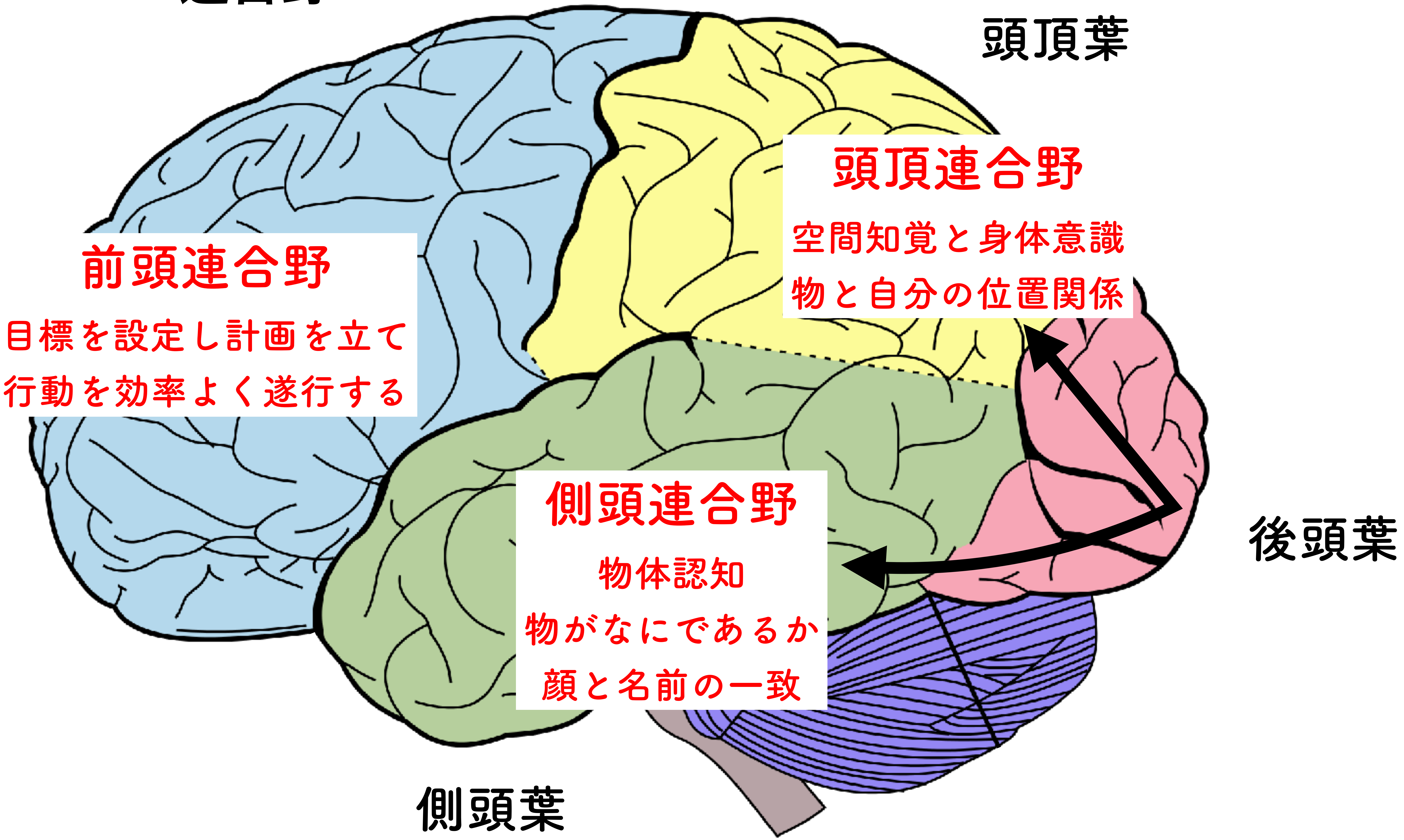
3語記銘　耳 → 言葉として認識 → 記憶
＝ 聴覚・言語性の入力

5物品記銘　目 → 物として認識 → 記憶
＝ 視覚・物体性の入力

3語○５物×→ 視覚認知・物体認知・視覚性の記憶過程を確認

3語×５物○→ 聴覚・言語理解・聴覚性注意・言語性の記憶過程を確認

情報（感覚）を統合する
連合野



野菜想起「知っている野菜を言ってください」

質問を理解する
側頭葉・言語ネットワーク
↓
「野菜」というカテゴリーを理解する
側頭葉を中心とする意味ネットワーク
↓
知っている野菜の情報へアクセスする
意味記憶
↓
必要な言葉を次々に検索する
前頭前野 ↔ 側頭葉
↓
重複しないよう確認しながら答える
前頭前野
↓
「大根・人参・キャベツ……」

意味記憶そのもの vs 検索障害を分ける

前頭葉の「検索戦略」が必要
検索方法を切り替えながら探し続ける
→遂行機能

側頭葉の「意味記憶」が必要
カテゴリー知識そのものには
側頭葉を中心とする意味ネットワークが重要
→意味記憶

野菜想起は「野菜を何個知っているか」ではない。
「持っている知識を、ルールに沿って効率よく検索し続けられるか」を見る。

３語遅延再生・野菜想起どちらも「検索」
ただ、海馬という短期記憶（３語遅延）か
側頭葉という長期記憶（野菜想起）かが違う

認知の流れ

HDS-R項目	認知処理の流れ
① 年齢	聞く → 理解 → **自己情報を探す** → **現在と照合** → **更新** → 答える
② 日時	聞く → 理解 → **時間情報を探す** → **現在と照合** → **今を特定** → 答える
③ 場所	聞く → 理解 → **周囲を認識** → **場所の記憶と照合** → **今いる場所を特定** → 答える
④ 3語記銘	聞く → 言葉を認識 → 注意を向ける → **記憶に入れる** → **一時保持** → 答える
⑤ 計算	聞く → 理解 → **数字とルールを保持** → **計算する** → **結果を更新** → 答える
⑥ 数字逆唱	聞く → 数字を認識 → **一時保持** → **順番を入れ替える** → 答える
⑦ 3語遅延再生	質問を理解 → **記憶へアクセス** → **探す** → **取り出す** → 答える
⑧ 5物品記銘	見る → **認識** → **記憶に入れる** → **保持** → **取り出す** → 答える
⑨ 野菜想起	質問を理解 → **「野菜」の意味を認識** → **知識へアクセス** → **探す** → **選ぶ** → 次々と答える

各項目とそれらの分類

HDS-R項目	大きな分類	具体的に何を見る？
① 年齢	見当識	自己の見当識・現在の自分への更新
② 日時	見当識	時間的見当識・現在の時間への定位
③ 場所	見当識	場所的見当識・現在の空間への定位
④ 3語記銘	記憶（記銘）	新しい言語情報の入力・符号化・即時保持
⑤ 計算	注意・ワーキングメモリ／計算	数字・ルールを保持しながら操作・更新する
⑥ 数字逆唱	注意・ワーキングメモリ	情報を一時保持し、順序を操作する
⑦ 3語遅延再生	記憶（遅延再生）	新しく覚えた情報の保持・検索・想起
⑧ 5物品記銘	記憶（視覚性記憶）	見た物を認識・符号化・保持・想起する
⑨ 野菜想起	意味記憶・語流暢性／遂行機能	既存知識へのアクセス・検索・選択・監視

同じHDSーR18点
日常生活はどう違う？

Aさん：HDSーR 18点

日時 –4

遅延再生 –6

その他ほぼ保たれる

Bさん：HDSーR 18点

逆唱 –2

計算 –2

物品記銘 –3

野菜想起 –5

同じ18点でも、

同じ18点だけど、同じ問題が起こり、同じ対応でいいのだろうか？

同じHDS−R18点
日常生活はどう違う？

項目	何してる？	満点	Aさん	Bさん
① 年齢	自分を「現在」に位置づける	1点	1	1
② 日時	今が「いつ」かを特定する	4点	**0**	4
③ 場所	今「どこ」にいるかを特定する	2点	2	2
④ 3語記銘	新しい情報を記憶に入れる	3点	3	3
⑤ 計算	情報を保持しながら計算・更新する	2点	2	**0**
⑥ 数字逆唱	情報を保持しながら順番を操作する	2点	2	**0**
⑦ 3語遅延再生	覚えた情報を保持して取り出す	6点	**0**	6
⑧ 5物品記銘	見て認識し、覚えて、取り出す	5点	**3**	**1**
⑨ 野菜想起	持っている知識から探し続ける	5点	5	**1**
合計		30点	18点	18点

Aさん：HDS－R 18点

認知処理でいうと
新しい情報を入れる
↓
保持する ← ここが弱い？
↓
後から取り出す ← ここが弱い？
さらに、過去の時間情報
↓
現在へ更新 ← ここも弱い？
↓
「今日は何日？」

だからAさんは、
「時間を越えて情報をつなぐ」
ことに弱さがあるタイプ

Bさん：HDS－R 18点

認知処理でいうと
情報を聞く→理解
↓
一時的に保持 ← ここが弱い？
↓
操作する ← ここが弱い？
↓
必要なものを検索 ← ここが弱い？
↓
選択・監視 ← ここが弱い？
↓
行動する

計算×＋逆唱×
→ 注意・ワーキングメモリ・情報操作
野菜想起×
→ 意味検索・検索戦略・監視

同じHDS−R18点
日常生活はどう違う？

Aさん：HDS−R 18点

時間を越えると困る
「今は分かる」
↓
時間経過
↓
後で使えない
→ 記憶・時間更新を詳しく見る

Bさん：HDS−R 18点

情報量が増えると困る
「一つならできる」
↓
複数の情報
↓
処理できない
→ 注意・ワーキングメモリ・検索／遂行を詳しく見る

→ **「後で思い出せる仕組み」を作る**

→ **「今の情報量を減らす」**

Aさんには「残す」工夫が必要。Bさんには「減らす」工夫が必要。